

## <講演要旨>歯ブラシ：その歴史・現状と将来について(第2回歯科医療公開講座)

著者名(日)	石川 純
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	7
号	2
ページ	120
発行年	1988-12-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00007403/">http://id.nii.ac.jp/1145/00007403/</a>

## 〔講演要旨〕

## 第2回歯科医療公開講座

(東日本学園大学歯学部・附属病院創設10周年記念)

昭和63年11月5日

札幌パークホテル

## 歯 ブラ シ

～その歴史・現状と将来について～

北海道大学名誉教授

石 川 純

ナイル河のほとりに棲むワニはワニドリと共棲し、大きな口を開けてはワニドリに口の中の掃除をしてもらうという。また、かつてニューヨーク動物園のチンパンジーは、われわれが妻楊枝をくわえるように、しばしばストローをくわえていたというが、それが人間のしぐさの物まねか、歯の間に挟まった食片を取り除くために、自ら始めた行動かは確かではない。

人間は一体、いつの時代から、何のために、どんな道具を使って、どんなふうに歯を磨いてきたのだろう。

歯ブラシの起源は農耕の歴史と軌を一にするといわれ

るが、生活の知恵としてのこれまでの歩みをふりかえるとともに、現代科学の目を通して歯ブラシの意義を見直してみたい。

さらには今後、ブラッシングがどのような方向に進むのが望ましいかを、21世紀に生きる歯科医師として考えなければならないと思う。新しい歯科臨床の体系は、これまでの治療医学偏重の体質から脱皮して、ブラッシングなど予防医学の実践を根底に据え、健康維持を推進するように再構築される必要があるのではないだろうか。